

安心できるつながりの中で、自らの学びを楽しみ、新たな価値を生み出す児童の育成
～造形的な見方・考え方を働かせながら、自分の思いを表現できる学びの工夫～

2年生 図画工作科

「どんどん かわるよ 新聞紙」

梅雨に入ったかと思えば、すぐに真夏のような暑さが続く毎日ですが、その暑さを和らげてくれるのが、児童玄関で夏の風に揺れる色とりどりの短冊。図工タイムの第6回目として行った「折り染め短冊～七夕に願いを～」の活動で作成したものです。その季節ならではの活動を通して豊かな情操を育むこと、また色々な技法を学ぶ機会として、これからも大切にしていきたい時間です。



さて、今回のCanvasでは、授業研究会として2年生で行った図画工作科「どんどんかわるよ新聞紙」の学習の様子についてご紹介します。

「造形遊び」として設定しているこの題材。「絵」や「立体、工作」が、表したいことを見つけて、それに必要な材料を選んで表現する活動であるのに対して、「造形遊び」は、材料や場所、空間との出会いがスタートとなります。そこから自分の感覚や自由な活動を通して、形や色などを捉え、発想や構想を繰り返していく、その過程を最も大切にしています。

今回、子どもたちが出会う材料は、新聞紙。教室の中いっばいに広げた新聞紙を囲んで、いざ活動開始です！ペラペラの薄い新聞紙が「丸める」「ねじる」「破る」「重ねる」などの働きかけを通してどんどん姿を変えていきます。「重ねたら硬くなって力いっぱい引っ張っても破れないよ！だから何枚も重ねて強い剣を作ってる。」「ちぎって放り投げたらひらひら降ってきて、花ふぶきみたい。きれいだから誰かにかけてあげたい！」「破りやすい向きと、そうでない方がある！こっちの向きで割いたらまっすぐ割けて髪の毛みたいになった！」などと、五感をいっばいに働かせながらの活動を通して、形だけでなく、その変化に伴う紙の質感や、感触、音の違いに気付き、そこからまた新たな発想を生み出していく子どもたちの姿がありました。体験して感じたことが、こうして、造形的な見方・考え方と結びついていく中で、それが次の活動に活かされたり、生活の中での生きた力として発揮されたりしていくのだと考えています。

時間の終わりには、「これ、今日持って帰る！」「ずっとこの服着ていていい？」と子どもたち。新聞紙が自分にとって「価値のある宝物」として生まれ変わりました。研究主題で掲げる目指す姿と重なる子どもたちの様子を嬉しく思います。



子どもたちの振り返りより

- 新聞しをくしゃくしゃにしたら、いい音になることに気がきました。
- 新聞しで丸めたり、おったりして、さいしょは小さいボールだったけど、どんどんくっつけて、さいごには大きくてつぶれないボールになってよかった。
- ねじったり、まきまきしたり、形をかえてたのしかったです。くらげもつくりました。
- ドラムガンをつくりました。新聞しをいっばいまるめてかさねてつくりました。はしっこをねじって、なっとうもつくりました。